

# NUAPRESS

## 2003 no.10

名古屋芸術大学  
美術・デザイン学部  
同窓会情報誌

NAGOYA  
UNIVERSITY  
OF ARTS

発行日 2003年10月1日  
発行人 青木高弘  
編集 同窓会編集部  
発行所 〒481-8535  
愛知県西春日井郡西春町  
TEL (0568) 24-0325



東側のギャラリー入り口。  
コンクリート打ちっ放しの外観が、  
白く塗られ美しくなった。

**特集** 名古屋芸術大学から新しく発信します。

## Art & Design Center 本格始動



ラウンジ南側は磨きガラスが天井まで伸びる、  
とても明るい空間になっている。

以前このNUAPRESSでも特集しました、B棟の改修ですが、今号は棟の東側に位置する『アート&デザインセンター』を特集します。2003年春、専任のスタッフ常駐することとなり、センター運営委員会\*も強化し本格的に活動をはじめました。専任スタッフも学内外の協力のもと、新しい展覧会やワークショップを開催しています。

\*アート&デザインセンター運営委員会メンバー  
センター長 神戸峰男  
委員長 高橋綾子  
副委員長 藤松由美  
委員 津田佳紀  
委員 岩井義尚  
須田真弘  
池側隆之

センタースタッフ 江坂恵里子

### 展覧会スケジュール [2003年10月から]

- 『の素』展(10.2まで)
- 秋の企画展『新宮晋展』(10.7-11.4)
- 『山口幸一+田畠昌良+水谷みゆき』展(11.14-27)
- 『SUN Q』展(11.28-12.4)
- 留学生作品展(12.6-11)
- 『境界から見えるもの』展(12.12-18)
- 日本画3年作品展(12.19-25)
- 『楮から和紙一心の風景』村上典子展(2004.1.9-15)
- 『AfterRemisen #5』展(1.23-2.5)

——今年度から専任のスタッフとして活躍中の江坂恵里子さんに、これまでの経緯をお話いただきました。

30年間にわたって絵画棟だったB棟が新洋画棟の完成に伴って大改修が行われました。B棟を大学全体で利用する文化・厚生施設として再開発する計画でした。

## どんな施設に生まれ変わらせるのか？

「施設利用特別委員会」を設置し広くアンケート調査をして要望を募りました。改修計画には積極的に学生たちのアイデアも取り入れられました。そして最終的に選ばれたのが学内の中央の場所にふさわしい誰もが利用出来る文化コンプレックスです。



1998年、PH STUDIO\*の設計でB棟は外光を取り入れた明るい空間に生まれ変わりました。「食堂」「図書館」「大講義室」そして『アート&デザインセンター』。アート&デザインセンターにはギャラリーBE&be、レジデンス制作スタジオ\*\*、常設展示のスペースも備えたラウンジ・スペースなどの機能が揃いました。学内だけでなく社会にも開かれた教育文化施設が誕生したのです。

2001年、美術文化学科の開設とも連動して、あらためてハードにふさわしい『アート&デザインセンター』のありかたについて検討が重ねされました。

2003年4月、『大学内の独立した組織として教育、研究の向上と共に、社会の芸術文化活動の発展に寄与する』という理念のもと、アート&デザインセンターは、学内外の文化情報の収集・発信空間であるとともに、社会に開かれた教育文化施設として新たにスタートしました。

「開く」というコンセプトで改修されたB棟を、展覧会やワークショップを行なう知的な刺激の空間、そしてラウンジ・スペースを憩いの場として活用して頂きたいと思います。

PH STUDIO\*.....美術家と建築家、写真家からなる4名のユニット。発足は1984年。活動は、美術館やギャラリー、野外プロジェクト、建築設計等多岐に渡る。

レジデンス制作スタジオ\*\*.....宿泊施設や制作スペースを合わせ持ったギャラリーや美術館などの意味として使われる。

## アート&デザインセンターからの発信



2003年5月、アート&デザインセンターから機関誌『B! e』を創刊しました。この媒体もまた、ギャラリーと同様、ひろく学内外の皆さんに様々な芸術文化情報を発信していくものです。学内にとどまらない題材を得て、鋭意魅力ある誌面づくりに努めています。

## 報告●春の企画展

### 『WITHOUT THOUGHT '99-'03』

2003.5.24-6.11 アート&デザインセンター



「WITHOUT THOUGHT」、つまり【考えない】デザインは、人々生活の中で無意識に汲み取っている何かを、直感的に伝えています。こう題された展覧会が春の企画展として開かれました。

分野・文化の異なる起業に所属するデザイナー達が、上記のコンセプトを共有し作り上げたプロダクト達。国内外で注目を浴びた過去4回の「WITHOUT THOUGHT」で発表された作品や写真を一堂に会した展覧会です。またインダストリアルデザイナーの深澤直人氏を迎えての、レクチャー・ワークショップなども行われました。

## T.A.G IZUTO

タグ イズトウ

愛知県名古屋市中区錦3丁目13-33 いづとうビル2F

名古屋市の繁華街錦、3丁目に本学造形科が中心となり企画運営していくスペースが誕生しました。

7月には造形科の教員を含めたグループ展、そして8月には「アート&デザインセンター」のプランチ企画として名古屋出身のアニメーション作家・山村浩二氏を迎え、アヌシー国際アニメーションフェスティバル2003でグランプリを受賞した作品『頭山』の原画展を、それぞれ開催いたしました。

今後も大学発信の場として、沢山の企画を用意してお待ちしております。なお、詳しい展覧会スケジュール等は大学ホームページ(同窓会)にも順次掲載していきます。  
[www.nua.ac.jp]

# New Open ! 新しくオープンしたスペースをいくつかご紹介します。

1

## IB Cube Gallery

アイビー キューブ ギャラリー 愛知県一宮市泉 1-10-12 <http://www.ib-cube-gallery.info/>

報告 松本幹永  
総画科洋画専攻12期卒

事のすべては、毎年名古屋芸術大学が、デンマークのブランデ市のレミセン・アカデミーと提携して行っている交換プロジェクト\*に始まる。ブランデ市では、例年7月頃に数カ国から作家を招聘し、集合アトリエでの3週間の現地制作を依頼、作家同士および市民との交流を深めてもらい、最後は展覧会で締めくくるというワークショップを行っている。名古屋芸大は、そこに連携するかたちで、OG/OBから毎年2名の作家を派遣し、その交換でデンマークから2名の作家を招くという交流を5年前から続けている。

自分が去年の夏、このワークショップに参加



元飲食店の中に80cm角のキューブギャラリーがある。

させてもらった時に知り合ったのが、いつもハイブをくわえ、パパイのような風貌で、ユーモアをもって他国からの作家の面倒を見てくれていた、デンマーク人作家のクラウスだった。すべての日程を終え帰国した後、9月にそのクラウスが福井の画廊での個展の為に日本にやってきた。その時に、彼は一宮の自宅まで訪ねてきてくれて、他の日本人作家のメンバーも集まり、皆で二ヶ月ぶりの再会を喜びあったのだった。

その頃、自分は実家にある元和食カウンターの店舗を利用して、友人ととにかく店でも始めようと、見切り発車での改装作業中であった。なかなかのアイデアマンのクラウスは、その現場をしげしげと見るうちに、何か思いついたらしい。彼が、デンマークのボーリンヤーグという町で、スポンサーを得てギャラリーを運営しているということは、前に聞いて知っていた。彼の歓迎会の酒の席で、クラウスはこう、自分に話を持ち掛けた。「日本とデンマークで、交流の証のギャラリーをやろう。」と。

その時は、酒の勢いも手伝って、話はトントン拍子に進んだ。作品の交換展を前提とした自主運営のギャラリー、そのためには、輸送コストを抑える必要がある。そうなれば、画廊サイズは必然的に小さなものにならざるを得ない。だったらいいすこと、そのギャラリーのサイズ規格だけ統一して、日本、デンマークだけでなく他にも参加国を募り世界中に拡げてはどうだ…。かくて、机上のミニ・ギャラリーは完成した。時に、2002年10月1日。

しかし、それからが糸余曲折。やると言ったものの、いつからとは決めていなかった。クラウスは既に帰国していて、相談はメールのやりとりで。実際にやるとなると、作家の選定は?、輸送費は誰もち?、情報はどうするの?、といった具合に、決めなくてはいけないことが山積。なによりも、80cm角の立方体のギャラリー自体を作らなければならない。宴席での楽しい発想ゲームから、タイトな現実に引き戻されつつも、クラウスの熱意に引張られ、2003年5月1日に、IB Cube Gallery( IとBは、一宮とボーリンヤーグのそれぞれの頭文字から取られた)と名付けられたミニ・ギャラリーはオープニングを迎えた。

自分もクラウスも、自分達はこのギャラリーのオーナーであるとは考えておらず、むしろ管理人さんの立場に近い存在だと思っている。この80cm角のガラス製のミニ・ギャラリーが、単なるガラスケースで終わるのか、はたまた、壮大にしてささやか、優雅にしてちんけな企てとして、何かの結実を見るのかは、管理者の微力のみならず、この主旨に共鳴し、参加してくださる方々の力にかかると思っていると思う。

これを、一読された皆様も、お時間があつたら是非一度、IB Cube Galleryをごぞいてみてやって下さい。くわしい情報に関しましては、上記のURLよりホームページをご覧いただければ。

交換プロジェクト\*日本側では毎年名古屋芸術大学美術学部版画研究室が主催している。

2

## Joint Project N/N Nishiharu Town + Nagoya University of Arts

エヌツー 愛知県西春日井郡西春町（名鉄犬山線西春駅西口すぐ）<http://www5.ocn.ne.jp/~n2online/index2.html>

報告 稲波伸行  
デザイン27期卒



N/N（エヌツー）とは、西春町と名古屋芸術大学の協同プロジェクトの名前です。西春町中心市街地活性化事業の一つとして昨年11月24日オーブンし、西春駅西口前のビルの1階に拠点をおいて活動しています。主な活動内容は、企画展の企画運営、アーティスト雑貨やデザイン雑貨の販売、住民に向けたワークショップや教室の企画運営、商店街の方々との協同で「マツリ」の企画などを行うというのが、現在の主な内容です。また、少しずつ始めていますが、これからはデザインの仕事にも力を入れて、学生を交えながら地元企業と商品開発をしたり、N/N

ブランドの商品を開拓していくつもりです。運営はレギュラースタッフが3人、学生スタッフ20人程度（流動的）で行っています。「N/Nってなんなんですか？」と聞かれる度ごのように答えているが、なんとも長い説明である。もっと短く一言で説明できないものであろうか、といつも感じているがなかなかうまくいかない。いつぞやのテレビの取材で「西春町を芸術のあふれる町にする、その為の拠点としてあります。」などと答えた事もあったが（半分言わされたようなものだったけれど）どうも違う。そんなかっこいいセリフなど、うまく言えなくて何回もNGをだしてしまった。

簡単に説明しなければならないときは、「マツクリにたずさわっています。」などと答えることもあるが、それもちょっと違和感がある。もっとうなうなんというか、少々強引に一言で言ってしまえば、デザイナーが語るデザイン、アーティストが語るアート、それらを「地域」という、人が生活していく一番「モト」となるところで具現化していきたい、青臭い事をいえばそういうことのかも知れない。

自分達の世代は「コミュニティは喪失した」と言われて育った世代である。親を除けば、自分達の世代の中でしか生活してこなかった世代。そんな自分が今地域と関わっている。お年寄りや子ども達と挨拶をかわすとき、ほのかに自分の居場所を感じたりする。人に認知されていることに快感を覚える、とでもいうのであろうか。そういう町で育った子どもは、良い感性を持って育っていくんだろうなと実感することもあつたりして、そう実感することができるだけでもここに身を置くに足る十分な理由だとも思うし、そういう場所で、デザインやアートを発信して人の繋がりを広げていくことが、N/Nの存在理由なのではないかと最近では考えている。その為にどうしたらよいか、日々うんうんうなっている。うなりながら考えている。

なんだか余計に分かりにくくなってしまったような気もするが、そういう方は、じゃあ結局N/Nって何なんだ？というギモンをもったまま、今後の活動を見て頂ければ幸いです。

3

## Pine in the factory パインインザファクトリー 愛知県南知多



この6月より、愛知県の南知多にある織布工場の跡地を利用して、フリースペース「Pine in the factory」をオープンさせました。ここに至る経緯には、様々な人達との出会いがありました。きっかけは今年の春先の事です。僕はヨーロッパを旅しながら、オランダの美術アカデミーを訪ねる目的で、パリ入りしました。そこで個展をしていた森部君と共に、立ち寄ったベルリンで、アーティストが占拠した建物を訪れる機会がありました。そこでは国籍もジャンルも違うアーティスト同士が、お互いに刺激し合いながら、制作に

励んでいました。その場からは独特的エネルギーが生み出されていて、自分自身の制作環境について悩んでいた僕は、とても羨ましく思うと共に、学生時代の事を思い出しました。在学中は意識せずとも当たり前のように、良い刺激を与えてくれる仲間達が側にいた事に気が付きました。制作に及ぼす環境の重要性と、そういった場所の必要性を感じ、日本に帰国した後すぐに場所を探し、オルタナティブスペースを作るに至った訳です。5月からスタートした廃墟復活プロジェクトに始まり、多くのボランティアの方々のおか

報告 森部英司 彫刻科 28期卒  
斎藤哲昌 デザイン科29期卒

左側写真／ファクトリー外観  
右側写真／森部英司作品>>今回、フランスで展示した作品を、ここチタリア（知多半島は、細長い形からイタリアに似ている事もあり、巷では「チタリア」と呼ばれている。）に持ち込んだ。展覧会タイトルは、[go at gallop in chita]一等の馬が、ギャラリーの中を駆け抜けていくイメージ、その馬が見た一瞬の風景を9メートルの壁一面に展示了した。今の制作スタイルは、常に環境の変化を求めて動き、色々な環境から受ける刺激や感動を作品で表現している。

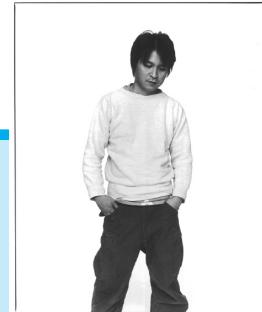
げで、無事オープンさせる事が出来ました。柔軟で実験的な場所として、まだプロジェクトの過程ではありますが、Pineに関わる人達によって、この場所の可能性を引き出して行けたらと考えています。幸い、僕の周りには森部君を始め、地道な制作活動を続けている人達がいます。モノ作りの楽しさを知っている人達と刺激し合えるのは、とても幸福な事だと思いました。この廃墟だった場所が、制作と、交流の場として、生き返る事を願っています。（平日は数人の仲間と共にアトリエとして利用し、週末は作品展や交流の場と一般に開放しています。）

## OG/OB 同窓生の今。

Featuring

林 規 章 デザイン科15期卒

撮影：内田将二



### グラフィックデザイナーという仕事

卒業して、15年。

随分経ったのだなーと感じつつ、昨日の事の様にも感じる。

卒業制作買い上げ賞を頂いた、この出来事は、それから先の僕にとってメンタル的にかなりのウエイトを占めることになる。

混乱した時に常に戻れる場所。そんな感じがするから。

常に、試行錯誤、実験のくり返し、印刷のこと、タイプグラフィーのこと、マーケティングのこと、モノを造るということ、モノを伝えるということ、モノを売るということ、知らない事をどんどん吸収していくのは楽しくて仕方なかった。

そういう気持ちの鮮度は、15年経った今でも変わらない。

一般的に、デザインは、表層的な部分で、語られがちだが、一つの機能だ。社会とつながる機能。コミュニケーションツール、最終的にデザインという魔法に落ちる。

建築、映像、絵画、現代美術、コンセプチュアルアート、インスタレーション、ファッション、言語、など。

人は、必要に応じてか否か、何かを造りたいと願い、何かを伝えたいと願い、何かを伝えることに意味を持つと願ったりする。

そんなのをすべてひっくるめることが出来るのが、デザインであると仮説をたてる。

パーソナルな場合もあれば、パブリックな場合もある。

パーソナルとパブリックの境目を知る由もないが、縛りを作ってしまえば楽だ。

それじゃつまらん、全ては、デザインにつながり、デザインで語られる。

- ・64 岐阜県生
- ・90 織研流通新聞広告賞 銅賞
- ・91 ジャパングラフィックスを経て HAYASHI DESIGN.主宰  
花王株式会社作成部と契約
- ・94 朝日広告賞 入賞
- ・96 日本廣告主協会 消費者のためになった広告賞  
通産大臣賞
- ・97 講談社広告賞 銅賞
- ・99 広告電通賞 部門賞
- ・99 日本雑誌広告賞 金賞
- ・01 フジサンケイグループ広告賞 雑誌部門 銀賞
- ・97~00~03 世界ポスタークリエイナーレトヤマ入選
- ・98~02 チェコ・ブルノ国際グラフィックデザインビエンナーレ入選
- ・99 日本デザインコミッティー・デザインフォーラム99・佳作・入選
- ・01~02 N.Y. ADC 特別優秀賞(2年連続)
- ・93~97~00~02 東京ADC 入選
- ・02 東京ADC賞プレミネート
- ・92~03 東京TDC 入選
- ・02 東京TDC会員賞ノミネート
- ・03 日本グラフィックデザイナー協会 新人賞 受賞  
現在主な仕事に、まるや塗料、司工務店、  
花王の化粧品ブランド  
「ソフィーナ レイシャス」などがある。

東京タイポディレクターズクラブ 会員  
社団法人日本グラフィックデザイナー協会 会員

2003日本グラフィックデザイナー協会 新人賞 受賞を期に  
受賞者3人でPIE BOOKS(ピエ・ブックス)より  
柿木原政広／林規章／水野拓 著  
「グラフィックデザインの入口」を出版、現在発売中



それぐらい広い範疇で考える事が出来るのなら、それはデザイナーにとって幸せなことであると思う。

ましてや誰か他者が共感を得てくれるのならより幸せである。

僕は、デザイナーという職業ではなく、デザイナーという生き方を選んだような気がする。

## ?続!神清院・河国荘と仲間達!ミニミニ同窓会報告

### 前略

2003年6月1日曜日!等々!やっしゃいました。25年という時間の扉を飛び越えて!全国より集まりしキューな益荒男達(一部女性も含む)?!去年秋、名芸会報に告知させていただき、おかげさまであちこちから励ましの声を頂き、なんとか無事に倉敷のアイビースクエアにて、ミニミニ同窓会をおえることが出来ました。参加メンバーは、(写真前列左より)櫻井寿人さん(彫・5)、八坂宏明さん(VD・5)、今西夫人(音・5)、吉崎家内、今西清剛さん(彫・5)、私吉崎大樹(彫・5)、(後列左より)柏原和利夫妻(日・5)、内藤哲也さん(彫・5)、岩井義尚さん(彫・5)、花井利彦さん(洋・5)、以上11名。あまりの嬉しさ故、前日からお越しいただいた方々や、またこの期におよんで開催日と場所の確認をされてきた方など?始まる前から珍事?アクシデント続発!!?という事は、始まつたら…??抱腹絶倒・絶句・絶叫!!!の連

打・連発にてある奥様などは、帰宅されてからお腹の皮を縫い合わせる大手術とか!?嘘だよ~ん>今だから話せる?新事実や人権無視!プライベート阻害?恐怖のたこ部屋、神清院・河国荘生活等々?!取って置きは、とりを締めてくれた自称仮免教師事?○×氏によるとりとめもない教員生活の日々…こんな感じで夜は更けてしまい?明くる日は寄る年波か?お疲れの面々ではありましたが、次回に向けて色々な意見も交換もされ!今回ご案内を告知いたしました方々、プラス吉崎の気まぐれと独断で5期卒だけに留まらず、ある方?の意見も尊重致しまして、特に女性くあくまで、当時アイドル的存在!?)の方々、他広く窓口を開いて多くの方に参加を告知したいと思います。

次回は2005年!あたりを目標にしておりますので、場所は中部・東海地方(別物のように大学らしくなった名芸見学を含む)なんて思っております!今後も根気と元気が続く限り企画していくといと願っておりますので、あの先輩と逢いたい!あの野郎どうしている?と先輩風を吹かせたい!あの子は元気?負けた麻雀の借金が気になる…等々(これはないか?!)ありましたら、私!吉崎までご連絡下さい!企画煮詰まり次第ご案内致しますので、今後ともお見知り置き宜しくお願い致します。

\*連絡先\*〒705-0003備前市大内679-13

電話0869-66-8569 吉崎大樹まで!

PS.次回はミニミニ同窓会から、せめてミニ同窓会になれば嬉しいかな!?と思っています。ご遠慮なく連絡を下さいね!

草々

参加メンバー(11名)でのスナップ



## 起業家応援コーナー【名古屋芸術大学デザイン科OB】

ゆくゆくは大社長になって卒業生の雇用促進につながるといいですね。

### カワチコーシ KOSHI Kawachi



1973年、岐阜県に生まれる。1996年度、名古屋芸術大学美術学部デザイン科造形実験コース卒業。YMOなどのアートディレクションを手がけていた奥村觀正氏に師事(サ・ステューディオ・トウキョウジャパン入社)。2001年にフリーランスとなり『HONA GRAPHICS』設立。企業広告、ポスター、ブックデザイン、エディトリアルデザイン、CDジャケットデザイン、などのグラフィックデザイン。イラストレーターとしても活動。他に『HONA』というユニットを組み、現代美術家として創作活動中。『HONA』の作品「KATANA」は国内外のギャラリー、ミュージアムショップなどで販売予定。

(HONA GRAPHICS) (HONA)  
e-mail:koshi@hona.jp URL : http://www.hona.jp  
TEL : 03-3424-7332  
〒154-0024 東京都世田谷区三軒茶屋2-15-14 ABCビル#412

### 柘植ヒロポン HIROPON Tsuge



1996年度卒業。後、デザイナーの松本弦人さんに憧れて上京。数年後、デザイナーの佐藤直樹さんに出会いデザインを学んでいたのだが、調子にのって事務所を飛び出でフリーに。仕事は書籍、雑誌などのエディトリアルが中心で、週1回、日本デザイナー学院の講師をしている。今年6月に株式会社ワークスコーポレーションから、「ヒロポンのオキラクデザイン DTP SCHOOL」という書籍を出版! 現在、今年12月～来年1月に出版される、翔泳社「標準DTPデザイン講座 / Illustrator DTP DESIGN BOOK」を執筆中。

e-mail :tsuge@mail6.alpha-net.ne.jp  
TEL/FAX 03-5716-8285

詳しくは、http://www.wgn.co.jp/dwbooks/okiraku/index.html

### 中井俊暢 TOSHINOBU Nakai



芸大出身のスキー教師…私は、現在スキー指導を中心とした職業についています。卒業してからこれ7年経っているとは何とも早いものです。当時を振り返ってみると、恥ずかしながら友人の説いて半ば折れた形で美術とは無縁のスキー部の門を叩きお世話になったのですが、友人や諸先輩との交流や指導の中でスキースポーツの素晴らしさに触れていくうちに、それらとは別に何か自分に足りなかつたものをここに見つけたと言う事が、今につながった大きな理由だと思います。私は、スキーを通じ日本と海外とを往復する生活中で、新しい仲間や様々な知識を学ぶたびに、あの時感じた心の高まりが蘇ってくるを感じます。また、今季より今まで勤めていた環境から一歩飛び出し、自分の理想としている新たなスキー環境を提案する事業をはじめます。今なお感じる心のドキドキ・ワクワクをより多くの方々と共に味わうことができ、今後も芸大出身のスキー教師として前に進んでいきたいと思っています。

e-mail:toshired@jp-c.ne.jp



### 小林さや花 SAYAKA Kobayashi



1973年、愛知県に生まれる。1996年、デザイン科SD卒業後、店舗内装・百貨店装飾の会社にて5年間デザインを担当。退社後フリーで仕事を始める。仕事が徐々に増えて来たので、勢いで2003年8月有限会社ソウ意匠を設立。インテリア、企画、広告(そんなにセンスは良くないけど…)、印刷などを生業とする。今後は多業種とのコラボレーションにより、今までにない事業を企画推進していく予定。

『The Chairs』という団体でオリジナルの椅子を創り、展示会や販売活動を行っています。

(旧姓石田) (有)ソウ意匠  
e-mail:k-sayaka@mb.ccnw.ne.jp  
TEL:0562-97-0758 FAX:0562-97-0779  
〒470-1167 愛知県豊明市栄町西大根30-300



現在の仕事／いけ花教室や多種学校への講師、雑誌・新聞チラシ・DMなどの花の制作、舞台美術としての挿花、いけ花パフォーマンス・デモンストレーション、いけ花に関しての講演・パネリスト、音楽家や陶芸家などの他職種とのコラボレーション、花道家としてのマスコミ出演、冠婚葬祭式典などの挿花、ホテル・ブティックなどのディスプレイ、料亭・茶会などへのいけ込み、庭園デザイン、他

## 小川珊瑚鶴(高史) 絵画科日本画専攻9期卒

### 「絵筆を花に持ちかえて」

桜・藤・牡丹・蓮・菊・紅葉・松…。日本の風土と相俟って芸術・文化を彩った花達。そんな日本の花の美しさへの憧れた「絵にも描けない美しさ」に咲き誇る花、桜もしかり牡丹もしかり、画家を目指しつつも私の絵筆の力量では到底描けなかつた花々。そんな挫折感の延長上に偶々幼い頃より習っていたいけ花に新たな目覚めをおぼえ、天職と思いつつ今に至っている。

フラワー・アレンジメント、フラワーデザイン、アートフラワーと多用化され、ひと昔前は前衛芸術などを目指し、近頃はよくテレビ、女性雑誌などに取り上げられている現在のいけ花であるが、敢えて私の目指しているものは、全世界に向かって日本の美を創作造形する一人の日本人としての活動である。

先人の華道家の幾人もが思ってきたことかも知れないが、未だに答えは見えていない現状下、いけ花界の古典や流儀などを超越した彼岸にあ

るものを探して花を活けていきたい。

何だかとっても思いのほか堅く書いてしまいましたが、清らかに水を満々と湛えた古銅の大水盤に老松の一枝を据えて、艶やかにしない藤の花房の蔓を絡め活けるその醍醐味の中より生れ出する、私の創り出した小宇宙を多くの人達に見つめてほしい、感じてほしい。

今、夜半過ぎに一人アトリエ兼教室で絵筆を動かそうとしている。明朝からの仕事である舞台美術としての挿花のデッサン、朝5時には花市への買付け、今日も眠れないなあ～。名芸で学んだ色々な事々が今はしばし絵筆を花に持ちかえての仕事の中で生きている。絵を捨て去った訳じゃないと思う心の中で、現在は、いけ花教室の先生・出張教授、雑誌・新聞チラシ・DMなどの花の制作など、花の事なら何でも、又いけ花関係のボランティア活動も行っています。

## 鈴木琢磨 彫刻科22期卒



現在、高校と名古屋芸大造形科の非常勤講師をやりながら、作品の制作と発表をしています。発表は主に国展という公募展といいくつかのグループ展に出品しています。とくに今年は大きな会場でのグループ展が多く、それに合わせて大きな作品をいくつも作らなければならず、夏休みの期間に集中し、一度に4体同時進行などという無謀な制作をしてしまいました。

私生活の方では、今年から高校の非常勤をしていますが、教えに行き始めて、伝える言葉の難しさや多くの生徒とのコミュニケーションで、家に帰るとぐったりしてなかなか作品制作ができないです。

これからも地道に制作発表していくので、興味がありましたら見て下さい。

## 加藤泰代 絵画科日本画専攻29期卒

### 「タイ留学で感じたこと」



名古屋に生まれてずっと住み続けていた私にとって、10ヵ月間、異国の地で生活することは、貴重な体験だった。交換留学先のタイ国は、日本と同じアジアというけれども、やはり外国であった。今まで、ひとつのところに凝り固まって、こうでなければと思っていたものが、どんどん削り取られていくようだった。

筆一本にしても日本と同じものではなく、これでなければと思っていたものが馬鹿馬鹿しく思えてきた。筆一本ないと描けない絵を描く必要はないと思うようになった。それから、暑くて絵なんか描く気になれない時もあった。暑いだけで描けない絵なんて描かなくていいやと気付いた。こんなに小さな事から自分の絵が変わっていくとは思ってもみないことだった。また、人間関係、日常生活でも、私には理解しがたい良いこと、悪いことがあった。

そしてタイで生活を続けているうちに、(どこの国でもそうだと思うが)表面上は日本と異なるけれども、信条や国民性などを取り去った深い人間的な部分は、同じだと思えるようになった。また、そのような部分に響きかけることのできる絵がすばらしいのでは、と考えるようになった。これからは、外国人、日本人を問わず、好まれる絵を描きたいと思う。

## 秋田光彦 絵画科洋画専攻5期卒



### 「25年後の自由と不自由」

私は1974年に入学、78年に卒業しました。以来早くも25年、4半世紀という時間が経ちました。私達の70年代は、名芸大にとっても草創期といえる時代でした。すべてが何もないところから始めるという、ある意味で自由と不自由が同居したような時代だったのです。25年後の今、名芸大は当時とくらべものにならない程に様変わりし、建物やアトリエも増え、色々な施設、設備が充実し、先生も増え、授業メニューも豊富になり、学生にとって必要なすべてのものが用意されているかのようです。

私は5年前から名芸大の非常勤講師として教壇に立つことになりました。時々現在の学生を羨ましく感じながら、何にもなかった私達の時代に何かの意味を見つけるかのように、こんな時もないことを考えたりする…何か新しく始めたり、つくったりする自由とか面白さは大きかったぞと。

社会全体がそうであるかのように、私達の時代に比べて選択の自由が今は遥かに大きい。大学の授業もより豊かになりました。そして丁寧に、きめ細やかに行われている。私自身もその役割の一端を担つてかなり丁寧に指導する。学生は次々と繰り出される授業メニューから欲しいものを選び、追われているかのように、そのすべての料理を食べつくし、消化しなければなりません。25年前とは違う自由と不自由がそこには存在しているように私は感じます。

2003.10.1[水]-18[土]より、  
GALERIE 141にて「空間の巣」と題し展覧会を開催。

## 今回、同窓会が後援を行った展覧会報告

去年の後半から今年の前半まで、同窓会が後援を行った展覧会を下記に報告します。  
後援依頼は後援規約をご確認の上ご応募下さい。

- group COM展(2期卒 恒川泰章 他7名)  
2002年8月22日～28日:ギャラリーチカシン
- パフォーマンス「風の地層/Layers of Wind」(16期卒 福原隆造)  
2002年9月1日:Culture Exchange Station in Tabor(チェコ共和国タボル市)
- 河野秀人日本画展(21期卒 河野秀人)  
2002年12月3日～8日:アートコレクション中野
- 版の思考・版の手法展2002(26期卒 中田由絵 他2名)  
2002年12月3日～8日:愛知県美術館ギャラリーG1・2室
- 朱線展(27期卒 稲熊昌美 他3名)  
2003年1月7日～19日:ギャラリー坂角
- パカラロ+チエリー,POOL展(29期卒 尾 他2名)  
2003年1月14日～2月7日:ギャルリーデコ
- 佐々木美樹子油絵展(17期卒 佐々木美樹子)  
2003年2月1日～28日:画廊喫茶「ろこ」
- サカイダヨーコ個展骸骨クッキー展(24期卒 坂井田陽子)  
2003年4月4日～27日:キマワリ荘roomD
- ギャラリープラネット2003年展(18期卒 櫻井昇二)  
2003年7月12日～20日:ギャラリープラネット

上記ほか。(計20企画／展覧会※2003年7月現在)

## 再度確認を！お願いします！

様式1	後援依頼	様式2	報告書
	○年○月○日 名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会 会長 青木 高弘 殿	○年○月○日 名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会 会長 青木 高弘 殿	
	第○期○○○科卒業 ○○○○○印	第○期○○○科卒業 ○○○○○印	
	下記の作品展について後援をお願いします。		
1) 名 称	○○○○展	1) 名 称	○○○○展
2) 場 所	○○○ギャラリー (住所・電話番号)	2) 場 所	○○○ギャラリー (住所・電話番号)
3) 会 期	○年○月○日～○年○月○日迄	3) 会 期	○年○月○日～○年○月○日迄
4) 代表者(出品者)	郵便番号・住所 ※氏 名 (第○期○○○科)・電話番号 注)※印は出品者全員記入	4) 代表者(出品者)	郵便番号・住所 ※氏 名 (第○期○○○科)・電話番号 注)※印は出品者全員記入
5) 入場者数	○○名	5) 入場者数	○○名
6) 写真	写真○点添付致します。	6) 写真	写真○点添付致します。
			以上作品展について報告致しますので後援金の支給をお願い致します。 振込先/○○銀行・○○支店・○○座・N.O.O 住所・氏名(名義)・電話番号

## 作品展に於ける後援規約

名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓生による個人又はグループの作品展に対して同窓会が後援する事により、同窓生の社会に於ける活動を支援する。

### 1. 資格

名芸大美術・デザイン学部同窓生で会費を収めた者。

(グループ展の場合おおむね 3割以上の同窓生で構成し、同窓生全員が会費納入者である事)

### 2. 後援金

個展・グループ展とも1回に二万円とし、年2回以上開催の作品展は年1回とする。但し、後援名使用は認める。

### 3. 手続き

イ)会期3ヶ月前迄に後援依頼書を提出し同窓会役員会の審査を受ける。

ロ)作品展終了後10日以内に、DM及び会場(作品)写真数点を添え報告書を提出する。尚、DM及び写真は資料にするため返却出来ませんので御了承ください。

### 4. 条件

イ)作品展のDM・看板等に後援名「名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会」を明記する。

### 5. 問い合わせ

名古屋芸術大学美術・デザイン学部事務局  
TEL0568-24-0325

## まもなく法人50周年 記念ラッピングバスが走ります!

来年、名古屋芸術大学は法人設立50周年を迎�니다。その記念行事として、音楽学部・美術・デザイン学部・短期大学部の同窓会では、共同事業で名古屋芸術大学をPRするためのラッピングバスを走らせることになりました。

バスのデザインについては、全ての同窓生、在学生および大学関係者からデザインを募りました。

同窓生には公募の案内を送り、在学生には学



各同窓会役員での審査の様子。

内にポスターを貼って募集を呼び掛けました。

その結果、総数41点の作品が集まりました。(内訳 美術学部:33点 短大部:7点 その他:1点)

9月に入り、美術・デザイン学部同窓会役員会にて厳正な審査を行い、多くの素晴らしい作品の中から大賞候補を数点選考いたしました。最終決定は、音楽学部、美術・デザイン学部、短期大学部の同窓会の代表者による話し合いで決定します。発表は、10月下旬に入賞者へ通知および名古屋芸術大学同窓会HPで紹介いたします。11月1日の同窓会懇親会で表彰する予定です。大賞1点の作品は、実際のバスをラッピングデザインし副賞として20万円、優秀賞2点には5万円の贈り、また応募作品はすべて校内にて展示することにしています。

ラッピングバスは、11月上旬から名古屋市営バスの栄11〔栄(オアシス21)→如意車庫前もしくは平田住宅〕(主なバス停=名城公園、庄内緑地公園、上小田井駅など)で1年間運行する予定です。

## ゴールデンプライズ 受賞者 2002

その年にめざましい活躍した同窓生を表彰するゴールデンプライズ賞。2000年度からは、優れた卒業制作を観覧者による投票形式にて選考し、表彰する卒業生を対象とした賞もはじめました。

2002年度の受賞者の方々は下記の方々です。

### ゴールデンプライズ賞

#### 卒業制作部門

大賞 小林紀子さん(彫刻科)

「Weathering」

入賞 金子絵理さん(絵画科日本画専攻)

「風色」

杉本智子さん(絵画科洋画専攻)

「眠れぬ夜」

猪原祥恵さん(絵画科版画コース)

「Sister☆」

### ゴールデンプライズ賞

#### 同窓生部門

鈴木琢磨さん(彫刻科22期)

岩城二三枝さん

(絵画科日本画専攻18期)

### 後記

■年一回発行の同窓会誌NUAPRESSもno.10をみなさまのお手元にお送りすることができました。

同窓生の方々からも沢山のレポートをお寄せいただき、ますます読み応えのある誌面になってきたと思っています。今後も充実した内容を目指していきます。みなさまのご理解、ご協力をよろしくお願ひいたします。

■同窓会掲示板が、西春キャンパスのB棟1階商店前に設置されています。展覧会の情報、就職情報などしお送りください。

■第16回同窓会総会・懇親会が11月1日(土)に金山の「サイプレスガーデンホテル」(詳細は右記)で開催されます。懇親会では、同窓生の交流と共に豪華景品が当たる楽しいゲーム等を企画しています。毎年、先生方も大勢いらっしゃいますので、仲間を説いて是非ご参加下さい。今年も、会費は無料です。多数の参加をお待ちしております。それでは同窓会総会・懇親会でお会いしましょう。

## 同窓会総会・懇親会のお知らせ

本年度は金山にあります「サイプレスガーデンホテル」にて、総会および懇親会を開催いたします。また今回も参加費は無料ですので、お気軽に足をお運びください。

### 場所 サイプレスガーデンホテル

#### 交通のご案内

●JR・名鉄・地下鉄金山総合駅南口から徒歩1分。信号を渡ってすぐです。

日時 平成15年11月1日 [土]  
受付 17:00~  
総会 17:30~  
懇親会 18:00~20:00

会費 無料 です。



### 役員紹介

評議員	監事	理事(事務局長)	理事(書記)	理事(会計)	理事(会計)	理事長	副会長	副会長	会長										
30期日本画	29期日本画	28期日本画	28期日本画	27期日本画	27期日本画	25期日本画	23期日本画	22期日本画	20期日本画	20期日本画	20期日本画	20期日本画	20期日本画	20期日本画	12期日本画	22期日本画	20期日本画	19期日本画	
水野寛奈	青木雅美	出口晴雄	加藤雄一郎	佐竹里希子	稻波伸行	鎌田桂太郎	余語英明	小島美奈	鈴木利穂	宮原剛	岡本昌子	小竹陽子	鈴木琢磨	三輪政弘	田口貴久	浜辺由美	水野加奈子	岩井義尚	中村恵美子
仲田真知子																			青木高弘
																			芳賀基純
																			平田隆宏

記事のお問い合わせ、投稿、また住所変更された方など…卒業期、科、氏名、住所、電話番号をご記入の上、下記までご連絡ください。

〒481-8535  
愛知県西春日井郡西春町  
名古屋芸術大学  
美術・デザイン学部同窓会事務局  
tel 0568-24-0325  
fax 0568-25-4190